

カレッジ音楽科昼間 I 部 シラバス

科目名	音楽理論(ミュージックセオリー I)	担当教員名	小林 延江	
時間数	30	必修・選択	配当年次	1年次 前期
曜日・時限			教室	
授業の到達目標	楽譜に書かれた音やリズム・記号の意味について理解し、楽譜の基礎を学んでいくことで正確に楽譜を読み取る力を身につけていくことを目標とする。			
授業の内容	※実務経験のある教員、知見を有する教員が、どのような授業を実施するのか、具体的に記載する教科書、補助プリント、楽譜と音源を使い、実際に楽譜の中でどのように書かれ、使われているのかも紹介しながら講義し、ワークブックを用いて繰り返し問題を解きながら読譜力をつけていきます。			
【実務経験】	2009年より大阪スクールオブミュージック専門学校で勤務。その他、宝塚エジュケーションクラブ、第一楽器(株)等の音楽教室でピアノ講師として後進の指導にもあたっている。			
回数	授業形態	内容		
1	講義	ファンデーションカリキュラムの説明・LMの説明・楽譜を時代ごとに追っていき、古代から現代への楽譜の移り変わりを知る		
2	講義	鍵盤と音名の一致・楽器ごとの音域を知る		
3	講義	音符・休符の表し方、連符		
4	講義	拍子記号・小節線について、拍子(単純拍子は詳しく、複合・混合拍子は紹介のみ)、タイ・シンコペーション		
5	講義	反復記号を学び、音源を使用して楽譜を追えるようにする		
6	講義	楽譜と音源を使用し、前半の総復習		
7	講義	確認テスト		
8	講義	メジャースケールの仕組み・#系のメジャースケールのみ		
9	講義	5度圏を用い、調号を用いてスケールを書けるようにする・b系のメジャースケール		
10	講義	調号と臨時記号の違い・臨時記号の効力・正しい楽譜の書き方		
11	講義	速度記号、速度標語、強弱記号を学ぶ		
12	講義	楽譜と音源を使用し、後半の総復習		
13	講義	期末予備テスト		
14	講義	期末テスト		
15	講義	テスト返却、復習		
準備学習 時間外学習				
成績評価	1. 実技試験(%) 2. 筆記試験(%) 3. 課題(%)	出席回数、授業態度、筆記試験の総合評価		
教材	教科書	ゼロから始める音楽理論、ワークブック		
	参考書			
学生へのメッセージ	楽譜は慣れです！楽譜に触れる機会をたくさん増やし、楽譜に書かれていることを正確に読み取れる力を身につけていけるよう日々の授業をコツコツ取り組んでいきましょう。			

カレッジ音楽科昼間 I 部 シラバス

科目名	音楽理論(ミュージックセオリーⅡ)	担当教員名	小林 延江	
時間数	30	必修・選択	配当年次	1年次 後期
曜日・時限			教室	
授業の到達目標	スケールの仕組みや曲の雰囲気の特徴付けるKeyについて、移調の仕方、楽譜に書かれた記号の演奏方法について、コードの概念と構造について理解することにより、楽譜をもう少し深いところまで読み取る力を身につけていくことを目標とする。			
授業の内容	※実務経験のある教員、知見を有する教員が、どのような授業を実施するのか、具体的に記載する教科書、補助プリント、楽譜と音源を使い、実際に楽譜の中でどのように書かれ、使われているか、どう使っていくか等紹介しながら講義し、ワークブックを用いて繰り返し練習していきながら習得していく。			
【実務経験】	2009年より大阪スクールオブミュージック専門学校で勤務。その他、宝塚エジュケーションクラブ、第一楽器(株)等の音楽教室でピアノ講師として後進の指導にもあたっている。			
回数	授業形態	内容		
1	講義	マイナースケールの仕組み・5度圏を用いてナチュラルマイナーの説明		
2	講義	ハーモニックマイナー、メロディックマイナーの説明		
3	講義	近親調・それぞれの調の関係を楽譜を用いて知る		
4	講義	五線を用いて移調を出来るようになる		
5	講義	省略記号、奏法記号、装飾記号を知る		
6	講義	楽譜と音源を用い、前半の総復習		
7	講義	確認テスト		
8	講義	コードの概念とトライアドの構造について知る		
9	講義	トライアドの知識を踏まえ、7thコードに発展させる		
10	講義	トライアドと7thコードの響きの違いを曲を用いて知る・dimコードの構造と響き		
11	講義	add9、sus4、6thコードについて知る		
12	講義	楽譜と音源を用い、後半の総復習		
13	講義	期末予備テスト		
14	講義	期末テスト		
15	講義	テスト返却、復習		
準備学習 時間外学習				
成績評価	1. 実技試験(%) 2. 筆記試験(%) 3. 課題(%)	出席回数、授業態度、筆記試験の総合評価		
教材	教科書	ゼロから始める音楽理論、ワークブック		
	参考書			
学生への メッセージ	楽譜は慣れです！楽譜に触れる機会をたくさん増やし、楽譜に書かれていることを正確に読み取れる力を身につけていけるよう日々の授業をコツコツ取り組んでいきましょう。			

カレッジ音楽科昼間 I 部 シラバス

科目名	音楽理論(イヤートレーニング I)	担当教員名	小林 延江	
時間数	30	必修・選択	配当年次	1年次 前期
曜日・時限			教室	
授業の到達目標	<p>《リズム》4分の3拍子・4分の4拍子で、4分音符、8分音符、16分音符、4分休符、8分休符の混ざったリズムを聴き取れるように。 《メロディー》C～Gまで(跳躍進行あり)を正確に聴き取り楽譜に書き表せるように。 《音程》1～8度までの音程を知る。 《コード》メジャーコードとマイナーコードを聴き分ける。</p>			
授業の内容	<p>※実務経験のある教員、知見を有する教員が、どのような授業を実施するのか、具体的に記載する キーボードで弾く音を聴き取り、リズムを感じ、それを表現するトレーニングを行っていく授業です。音感・リズム感・感性を鍛えていくと共に、音を集中して聴く力(集中力)、聴こえてきた音を正確に楽譜に表す力を身につけていきます。</p>			
【実務経験】	<p>2009年より大阪スクールオブミュージック専門学校で勤務。その他、宝塚エジュケーションクラブ、第一楽器(株)等の音楽教室でピアノ講師として後進の指導にもあたっている。</p>			
回数	授業形態	内容		
1	講義	ファンデーション科目・ETの説明/音の歴史について、音楽について、モールス信号、効果音、周波数(教科書第1章～2章の内容)		
2	講義	4分音符4分休符導入 / リズム打ちを使つての書き取り/線紙を使つて音の高低判定(C～E・2度進行)		
3	講義	線紙を使つての書き取り/3線紙を使つて音の高低判定(C～E・3度の順次進行)		
4	講義	8分音符導入 / 5線を使つてC～Eまでの書き取り / 全音・半音と度数のみ		
5	講義	休符の多い書き取り問題 / 1・2・3・8度のみ		
6	講義	16分音符の導入 / 復習・暗記問題/1・2・3・8度のみ変化記号(#・b)が付いた場合		
7	講義	復習・確認週		
8	講義	C～Eで跳躍進行/1～5と8度(4度、5度は#、bなし) トライトーン		
9	講義	8分休符+8分音符の導入 / C～Fまで(順次進行)/1～5と8度(4度、5度#、bあり)トライトーン		
10	講義	8分音符+16分音符リズムの導入 / C～Gまで(順次進行)/1～6と8度		
11	講義	C～Gまで(跳躍進行)/1～8度		
12	講義	1～8度 音程まとめ/Major, Minorの聞き分け/総復習		
13	講義	テスト対策週(まとめ)		
14	講義	テスト		
15	講義	テスト返却・復習		
準備学習 時間外学習				
成績評価	1. 実技試験(%) 2. 筆記試験(%) 3. 課題(%)	出席回数、授業態度、筆記試験の総合評価		
教材	教科書	イヤートレーニング		
	参考書			
学生へのメッセージ	週1回の授業を大切に!こつこつと積み重ねていくことで少しずつ耳は鍛えられていきます。継続して授業に出席することを定着させ、正確な音感・リズム感を身につけていきましょう。			

カレッジ音楽科昼間 I 部 シラバス

科目名	コンピューターミュージック(トラックメイク)		担当教員名	横野 康平
時間数	60	必修・選択	配当年次	1年次 前期
曜日・時限		必修	教室	606・501
授業の到達目標	DTMの仕組みと基本的使い方の習得。各自使用しているDAWのヒントにする。			
授業の内容	<p>※実務経験のある教員、知見を有する教員が、どのような授業を実施するのか、具体的に記載する用意した楽曲(課題曲)のテーマになっている事柄を含むパートを虫食いにして各自講義後穴を埋める(不足パートを制作する)。またその際学校に用意されているサードパーティー音源の使い方もレクチャーする。</p> <p>【実務経験】10年以上現役でJ-pop K-popの作曲編曲活動を行なっている。講師活動は4年以上。</p>			
回数	授業形態	内容		
1	演習	基本操作、ドラム音源の仕組み、ドラムの打ち込みが出来るようになる		
2	演習	コードの仕組みを理解し素早く打ち込むことが出来るようになる		
3	演習	ベースやギターの入った楽曲を元に素早く構成を作れるようになる		
4	演習	HIPHOPなどのコードがグループしている楽曲構成を素早く作れるようになる		
5	演習	シンセサイザーの仕組みを理解し簡単な音色などは自分で作れる様になる		
6	演習	アルペジエーターを学び楽曲に彩りを加えられるようになる		
7	演習	Pad,bell,stringsなどを使って曲に華やかさを加えられるようになる		
8	演習	参考音源を使ってオートメーションを学び曲に変化を加えられるようになる		
9	演習	SEについて学び楽曲を派手に聴かせれるようになる		
10	演習	サンプリングを習得しLoop素材などをカスタマイズ出来るようになる		
11	演習	トラックメイカー目線でのミックスを学び個性を出せるようになる1(色々なサイドチェイン)		
12	演習	トラックメイカー目線でのミックスを学び個性を出せるようになる2(音色のレイヤー&mix)		
13	演習	1コーラスラフデモ制作テスト		
14	演習	(ワークショップ)		
15	演習	(ワークショップ)		
準備学習 時間外学習	各ソフトウェアのオンラインマニュアルなどを読んでおく			
成績評価	1. 実技試験(%) 2. 筆記試験(%) 3. 課題(%)	授業態度30% 楽曲クオリティ70%		
教科書	教科書	データ又は動画		
	参考書	データ又は動画		
学生への メッセージ	一からの授業になります。各自のレベルは気にせず知りたいことがあればどんどん質問しに来てください。			

カレッジ音楽科昼間 I 部 シラバス

科目名	コンピューターミュージック(トラックメイク)		担当教員名	横野 康平
時間数	60	必修・選択	配当年次	1年次 後期
曜日・時限		必修	教室	606・501
授業の到達目標	DTMの仕組みと基本的使い方の習得。各自使用しているDAWのヒントにする。			
授業の内容	<p>※実務経験のある教員、知見を有する教員が、どのような授業を実施するのか、具体的に記載する用意した楽曲(課題曲)のテーマになっている事柄を含むパートを虫食いにして各自講義後穴を埋める(不足パートを制作する)。またその際学校に用意されているサードパーティー音源の使い方もレクチャーする。</p> <p>【実務経験】10年以上現役でJ-pop K-popの作曲編曲活動を行なっている。講師活動は4年以上。</p>			
回数	授業形態	内容		
1	演習	Maschineの概要説明Sampler内にある機能の紹介。Drum synthを使って常識にとらわれないDrumKitを作りビート作り。		
2	演習	MaschineのAudioのLoopModeの説明とアイデアの考案、Note modeを使って直感的なトラックメイキングに挑戦。レイヤーテクニックの紹介。		
3	演習	海外研修		
4	演習	Maschineでベースラインとメロディーの打ち込み。		
5	演習	Maschine内でアレンジを完成させる。Slice方法の紹介。		
6	演習	Maschineで作った素材の書き出し方、Ableton Linkでの同期方法、FXの使用例と作り方。Macroの設定方法。Automationの書き方		
7	演習	Ableton Liveの概要 session viewとarrangement viewの連動のさせかたを知る。いくつかLoopを作って展開を作ってみる		
8	演習	Ableton Liveの概要 session viewとarrangement viewの連動のさせかたを知る。いくつかLoopを作って展開を作ってみる		
9	演習	Ableton Live Launch機能の説明と習得1- Launch Modeを使ってサンプラーっぽく使ってみる		
10	演習	Ableton Live Launch機能の説明と習得2- Launch Modeを使ってランダムイズだけでフレーズを作ってみる。		
11	演習	Ableton Live内の"wabtable"の基本的な使い方からアフタータッチなどのMIDI control設定まで理解する。		
12	演習	MacroやMap機能またMaxForLiveなどを使ってエフェクターやシンセを拡張する術とAbletonのオートメーションを学ぶ。		
13	演習	1コーラスラフデモ制作テスト		
14	演習	ワークショップ		
15	演習	ワークショップ		
準備学習 時間外学習	各ソフトウェアのオンラインマニュアルなどを読んでおく			
成績評価	1. 実技試験(%) 2. 筆記試験(%) 3. 課題(%)	授業態度30% 楽曲クオリティ70%		
教科書	教科書	データ又は動画		
	参考書	データ又は動画		
学生への メッセージ	一からの授業になります。各自のレベルは気にせず知りたいことがあればどんどん質問しに来てください。			

カレッジ音楽科昼間 I 部 シラバス

科目名	コンピューターミュージック(マニピュレーション&ミキシング I)		担当教員名	西田 和史
時間数	60	必修・選択	配当年次	1年次 前期
曜日・時限		必修	教室	605
授業の到達目標	DAWの扱い方と様々な制作スタイルを身に付け、作品に応じて様々な制作手法を考えられるようになる。ミキシングやシンセサイザーによるサウンド加工の方法を習得し、アレンジや作曲において自身でディレクションやプロデュースを行うための感覚を養う。			
授業の内容	<p>※実務経験のある教員、知見を有する教員が、どのような授業を実施するのか、具体的に記載する</p> <p>DAWを使用して、様々なスタイルのサウンド、楽曲を制作する。またその為に必要な技術、知識を習得し、応用までを実践する。</p> <p>【実務経験】1994年大阪スクールオブミュージック専門学校卒業。劇団神戸及び、スタジオアクアにてマニピュレーター、エンジニアとして活動。2000年よりPowerFXなど海外サウンドデベロッパーに数多くのサウンドを提供。グリッチ、アンビエント系サウンドを得意とするクリエイター。1996年よりインストラクターとしても活動。</p>			
回数	授業形態	内容		
1	演習	作曲におけるDAWの活用方を知り、自身の制作イメージを形作る。		
2	演習	DAWにおけるドラムの入力。ビートの理解。音色による楽曲の変化。		
3	演習	メロディーとコードの実践的な入力方法。コードアレンジへのDAWの利用法。		
4	演習	各トラック・楽器の楽曲での役割を考え、音量・定位・ルーティングなどの設定を行う。		
5	演習	楽曲の全体像を作るため、作曲のための楽器演奏シミュレーション。		
6	演習	4リズムでの楽曲制作。実践的なトラックメイキングの流れを理解する。		
7	演習	自作曲のリアレンジ・リミックスを行い様々な変化をコントロールする。		
8	演習	様々な楽器のコンビネーションにおけるグループコントロール。		
9	演習	サウンド変化によるグループコントロール。ダンストラック・ベースミュージックの作成		
10	演習	シンセサイザー・サンプラーの詳細を理解し、自作曲への応用する。		
11	演習	エフェクターによるサウンドクオリティーのアップと表現方法。		
12	演習	音響知識を学び、アレンジ・MIXの実践力に結びつける。		
13	演習	自身の楽曲をこれまでに学んだ観点から分析する。ビート、コード、周波数分布、MIXなど。		
14	演習	ワークショップ		
15	演習	ワークショップ		
準備学習 時間外学習	生活の中に作曲、楽曲制作を組み込んでください。			
成績評価	1. 実技試験 (%) 2. 筆記試験 (%) 3. 課題 (%)	3.課題 100%		
教科書	教科書			
	参考書			
学生への メッセージ	DAWやコンピュータを使った作曲・制作方法をマスターします。自身や楽曲にどんな可能性があるのか楽しみましょう。			

カレッジ音楽科昼間 I 部 シラバス

科目名	コンピューターミュージック(マニピュレーション&ミキシング I)		担当教員名	西田 和史
時間数	60	必修・選択	配当年次	1年次 後期
曜日・時限		必修	教室	605
授業の到達目標	DAWの扱い方と様々な制作スタイルを身に付け、作品に応じて様々な制作手法を考えられるようになる。ミキシングやシンセサイザーによるサウンド加工の方法を習得し、アレンジや作曲において自身でディレクションやプロデュースを行うための感覚を養う。			
授業の内容	※実務経験のある教員、知見を有する教員が、どのような授業を実施するのか、具体的に記載する DAWを使用して、様々なスタイルのサウンド、楽曲を制作する。またその為に必要な技術、知識を習得し、応用までを実践する。 【実務経験】1994年大阪スクールオブミュージック専門学校卒業。劇団神戸及び、スタジオアクアにてマニピュレーター、エンジニアとして活動。2000年よりPowerFXなど海外サウンドデベロッパーに数多くのサウンドを提供。グリッチ、アンビエント系サウンドを得意とするクリエイター。1996年よりインストラクターとしても活動。			
回数	授業形態	内容		
1	演習	自己作品を分析。課題の確認と設定。前期の復習など		
2	演習	アナログシンセの使用法。音色制作。シンセベースなど		
3	演習	参考曲の楽器の聞き分け、再現方法の選択、アレンジの確認。		
4	演習	参考曲のフレーズ・音色やミックスの再現		
5	演習	参考曲のフレーズ・音色やミックスの再現		
6	演習	メロディーとベースの主要音からコード進行を確認する。		
7	演習	コード楽器の音色加工をしつつ、バックングパターンを作る。定番音色やバックングパターンの確認。		
8	演習	ミックスを考えた、バックング作成。定番のミックス方法など		
9	演習	自作曲の分析と課題の確認		
10	演習	周波数での音の棲みわけや、音の配置。FM音源やグラニューラシンセなどについて。		
11	演習	ディレイ、フィルター、ダイナミクス、モジュレーション系エフェクターについて		
12	演習	ボーカルミックス、ステム・グループの管理、音量・音圧のコントロール		
13	演習	基本技術の確認と実践的な使用。様々な技術の応用とコンビネーション。		
14	演習	ワークショップ		
15	演習	ワークショップ		
準備学習 時間外学習	生活の中に作曲、楽曲制作を組み込んでください。			
成績評価	1. 実技試験 (%) 2. 筆記試験 (%) 3. 課題 (%)	3.課題 100%		
教科書	教科書			
	参考書			
学生への メッセージ	DAWやコンピュータを使った作曲・制作方法をマスターします。自身や楽曲にどんな可能性があるのか楽しみましょう。			

カレッジ音楽科昼間 I 部 シラバス

科目名	音響(REC制作I)	担当教員名	前川 祐一郎
時間数	60	必修・選択	配当年次
曜日・時限		選択	教室
授業の到達目標	<p>「学んだ基礎知識を活かし、ゆっくりで正確な作業ができるようになる。」入学して最初の半年ですので、まずは確実な作業ができるようになります。ゆっくりで構いません。使い方・やり方をただ覚えるだけでは、様々なレコーディング内容や環境に対応できません。学んだ基礎知識を一つ一つ理解しながら、何度も繰り返し作業することで身につきます。スピーディーかつスムーズにレコーディングできるようにするには、まずはゆっくりでも確実な作業を心がけましょう。</p>		
授業の内容	<p>※実務経験のある教員、知見を有する教員が、どのような授業を実施するのか、具体的に記載する</p> <p>スタジオの様々な機材は何のために設置されていて、それら機材の一つ一つの機能は何のために備わっていてどのように使うのかを学び、理解して、実際にレコーディングが執り行えるようになります。機材の使い方だけでなく、スタジオで作業する様々な役割の人たちとどのようにコミュニケーションをとってレコーディングが行われているのかも学び、実践できるようになります。</p> <p>【実務経験】1997年にM-bar Studioにてレコーディングエンジニアとしてキャリアをスタートしました。2000年にフリーランスとして独立し、翌2001年からはプライベートスタジオを中心に様々な音源制作に参加しています。レコーディングスタジオでのレコーディングに限らず、ライブハウスやコンサートホールなどへ機材を持ち込んでのレコーディングもこなしています。生楽器のレコーディングのみならず、作曲編曲アプリケーションで自ら打ち込みも行なっていますので、様々なジャンルの楽曲制作に対応しています。</p>		
回数	授業形態	内容	
1	演習	はじめに スタジオの準備と後片付け～電源のON/OFFの順番などスタジオ作業するためのセッティングマナーを知る。	
2	演習	Monitor Sectionのコントロール～スピーカーを口鳴らすためのセッティングエンジニアを目指す者としてのサウンドの聴き方を知る。	
3	演習	音源の起ち上げ(Mc Input)～Mcをミキサーに起ち上げるために必要な様々な音響基礎知識を学ぶ。	
4	演習	音源の起ち上げ(Line Input)～Mc以外の機材をミキサーに起ち上げるために必要な様々な音響基礎知識を学ぶ。	
5	演習	音源の起ち上げ(INST Input)～E.GやE.Bassをミキサーに起ち上げるために必要な様々な音響基礎知識を学ぶ。	
6	演習	DAWシステムについて(Pro Toolsの基本)～Pro Toolsの基本について学ぶ。	
7	演習	DAWシステムについて(Bus OutputとDirect Output)～スタジオにおけるミキサーとレコーダーの回線システムについて学ぶ。	
8	演習	Digital AudioとAnalog Audio～デジオーディオについて学ぶ。レコーディング時に気をつけなければならない事項を知る。	
9	演習	Mcについて～Mcの基礎知識を学ぶ。	
10	演習	QUEシステムについて～QUEシステムについて学ぶ。レコーディングがどのように進められるのかを知る。	
11	演習	ミキサーの基本(AUX)～AUX機能について学ぶ。エフェクターを使えるようになる。	
12	演習	ミキサーの基本(INSERT)～INSERT機能について学ぶ。エフェクターを使えるようになる。	
13	演習	レコーディング実習～ミュージシャンを迎え、これまでに学んだ知識を活かして実際にレコーディングを実践する。	
14	演習	ワークショップ	
15	演習	ワークショップ	
準備学習 時間外学習	<p>これまでに「聞」いてきた様々な楽曲を「聴」き直してください。これから出会う楽曲は「聴」きましょう。どんな楽曲にどんな楽器が使われていて、そのサウンドで自分がどんな気持ちになるのか、他のリスナーはどんな気持ちになるだろうか？と考えながら聴いてください。歌詞を読み、作詞家・作曲者はその楽曲で何を表現したいのか？アレンジャー・プレイヤーは作詞家・作曲者の表現したいものをどのように表現しているのか？それらをエンジニアはどのようにレコーディングし、ミキシングしたのか？様々なことを想像して聴いてください。意味のない音は鳴っていません。正解は分からないかも知れませんが、そうやって音を聴いて考えることが、いつか自分がエンジニアとして制作に携わるときの下敷きになります。</p> <p>スタジオの様々な機材を使って、自分がどんなサウンドを奏でたいのかを養って行きましょう。</p>		
成績評価	1. 実技試験(%) 2. 筆記試験(%) 3. 課題(%)	授業内での実習に関わる姿勢(60%)と、課題の提出(40%)で評価します。 1. 実技試験 0% 2. 筆記試験 0% 3. 課題 40%	
教材	教科書	なし	
	参考書	なし	
学生へのメッセージ	技術的な専門用語が多く、難しい授業の印象を受けますが、出来るだけ易しく説明をします。分からないところはどんどん質問してください。後に見返した時に自分への教科書になるように、ノートをとってください。		

カレッジ音楽科昼間 I 部 シラバス

科目名	音響(REC制作I)	担当教員名	前川 祐一郎
時間数	60	必修・選択	配当年度
曜日・時限		選択	教室
授業の到達目標	<p>「学んだ基礎知識を活かし、ゆっくりで正確な作業ができるようになる□□。」 入学して最初の半年です。まずは確実な作業ができるようになります。ゆっくり構いません。使い方・やり方をただ覚えるだけでは、様々なレコーディング内容や環境に対応できません。学んだ基礎知識を一つ一つ理解しながら、何度も繰り返し作業することで身につきます。スピーカーかつスムーズにレコーディングできるようにするには、まずはゆっくりでも確実な作業を心がけましょう。</p>		
授業の内容	<p>※実務経験のある教員、知見を有する教員が、どのような授業を実施するのか、具体的に記載する</p> <p>スタジオの様々な機材は何のために設置されていて、それら機材の一つ一つの機能は何のために備わっていてどのように使うのかを学び、理解して、実際にレコーディングが執り行えるようになります。機材の使い方だけでなく、スタジオで作業する様々な役割の人たちとどのようにコミュニケーションをとってレコーディングが行われているのかも学び、実践できるようになります。</p> <p>【実務経験】1997年にM-bar Studioにてレコーディングエンジニアとしてキャリアをスタートしました。2000年にフリーランスとして独立し、翌2001年からはプライベートスタジオを中心に様々な音源制作に参加しています。レコーディングスタジオでのレコーディングに限らず、ライブハウスやコンサートホールなどへ機材を持ち込んでのレコーディングもこなしています。生楽器のレコーディングのみならず、作曲編曲アプリケーションで自ら打ち込みも行なっていますので、様々なジャンルの楽曲制作に対応しています。</p>		
回数	授業形態	内容	
1	演習	電源のON/OFFの順番など□□スタジオで□□作業するためのセッティングマナーを□□知る。	
2	演習	スピーカーを□□鳴らすためのセッティングを□□学ぶ□□エンジニアを□□目指す者としてのサウンド□□聴き方を知る。	
3	演習	Micをミキサーに起ち上□□のために□□必要な様々な音響基礎知識を学ぶ□□	
4	演習	Mic以外の機材をミキサーに起ち上□□のために□□必要な様々な音響基礎知識を学ぶ□□	
5	演習	E.GtやE.Bassをミキサーに起ち上□□のために□□必要な様々な音響基礎知識を学ぶ□□	
6	演習	Pro Toolsの基本について学ぶ□□	
7	演習	スタジオにおけるミキサーとレコーダーの□□回線システムについて学ぶ□□	
8	演習	デッドオーディオについて□□□□学ぶ□□レコーディング□□時に気をつけなければならない□□事項を知る。	
9	演習	Micの基礎知識を学ぶ□□	
10	演習	Q.Eシステムについて学ぶ□□レコーディングが□□□□□□□□進められるのかを知る。	
11	演習	AUX機能について学ぶ□□エフェクターを使えるようになる。	
12	演習	INSERT機能について学ぶ□□エフェクターを使えるようになる。	
13	演習	ミュージシャンを迎え、これまでに学んだ知識を活かして実際にレコーディングを実践する。	
14	演習	ワークショップ	
15	演習	ワークショップ	
準備学習 時間外学習	<p>これまでに「聞」いてきた様々な楽曲を「聴」き直してください。これから出会う楽曲は「聴」きましょう。どんな楽曲にどんな楽器が使われていて、そのサウンドで自分がどんな気持ちになるのか、他のリスナーはどんな気持ちになるだろうか？と考えながら聴いてください。歌詞を読み、作詞家・作曲者はその楽曲で何を表現したいのか？アレンジャー・プレイヤーは作詞家・作曲者の表現したいものをどのように表現しているのか？それらをエンジニアはどのようにレコーディングし、ミキシングしたのか？様々なことを想像して聴いてください。意味のない音は鳴っていません。正解は分からないかも知れませんが、そうやって音を聴いて考えることが、いつか自分がエンジニアとして制作に携わるときの下敷きになります。スタジオの様々な機材を使って、自分がどんなサウンドを奏でたいのかを養って行きましょう。</p>		
成績評価	1. 実技試験(%) 2. 筆記試験(%) 3. 課題(%)	授業内での実習に関わる姿勢(60%)と、課題の提出(40%)で評価します。 1. 実技試験 0% 2. 筆記試験 0% 3. 課題 40%	
教材	教科書	なし	
	参考書	なし	
学生への メッセージ	技術的な専門用語が多く、難しい授業の印象を受けますが、出来るだけ易しく説明をします。分からないところはどんどん質問してください。後に見返した時に自分への教科書になるように、ノートをとってください。		

カレッジ音楽科昼間 I 部 シラバス

科目名	音響(RECベーシック)	担当教員名	北畑 俊明
時間数	90	必修・選択	配当年次
曜日・時限		必修	教室
授業の到達目標	レコーディングエンジニアとして必要とされる知識、オペレーション能力、コミュニケーション能力の習得。		
授業の内容	<p>※実務経験のある教員、知見を有する教員が、どのような授業を実施するのか、具体的に記載する</p> <p>座学による音響機器の仕組み、機能、使用方法、音響学及び、スタジオ実習による</p> <p>実践的オペレーション、実験、研究等から総合的にレコーディングエンジニアの基礎を習得していく。</p> <p>【実務経験】大学卒業後、ドラマー、PAエンジニアの仕事につく。後にアルケミースタジオを設立。以後、レコーディングエンジニアを主に、レコーディングエンジニア、マスタリングエンジニア、PAエンジニア、ドラマーとして活動。</p>		
回数	授業形態	内容	
1	演習	レコーディングエンジニアの仕事について。	
2	演習	スタジオの機材の役割、機能、接続、信号の流れ	
3	演習	ミキシングコンソールについて。概要	
4	演習	ミキシングコンソールについて。ルーチングマトリクス	
5	演習	アナログ、デジタルについて/録音機器について	
6	演習	DAWの概要、仕組み、周辺機器について	
7	演習	マイクロフォンの構造、種類、仕組みについて、	
8	演習	マイクロフォンの分類、マイクアレンジ、ステレオマイク、マルチマイクについて	
9	演習	スピーカー、パワーアンプ、モニタースピーカーについて	
10	演習	ケーブル、コネクタ、パッチベイについて	
11	演習	レコーディングプラン、マイクスタンドの取り扱い、セッティング、	
12	演習	ミキシングコンソール、システム構築、ステータス、ルーチングについて	
13	演習	Pro Tools セッション構築	
14	演習	ワークショップ	
15	演習	ワークショップ	
準備学習 時間外学習	音楽鑑賞、コンサート、ライブ鑑賞		
成績評価	1. 実技試験(%) 2. 筆記試験(%) 3. 課題(%)	前期: 筆記試験(100%) 後期: 実技試験(100%)	
教材	教科書	音響設備マニュアル	
	参考書		
学生への メッセージ	前期ではスタジオのシステムの理解、レコーディングエンジニアに必要な基礎知識を中心の授業展開になり、後期の後半では小編成のレコーディングができるところまでを目標にします。		

カレッジ音楽科昼間 I 部 シラバス

科目名	音響(RECベーシック)	担当教員名	北畑 俊明
時間数	90	必修・選択	配当年次
曜日・時限		必修	教室
授業の到達目標	レコーディングエンジニアとして必要とされる知識、オペレーション能力、コミュニケーション能力の習得。		
授業の内容	<p>※実務経験のある教員、知見を有する教員が、どのような授業を実施するのか、具体的に記載する</p> <p>座学による音響機器の仕組み、機能、使用方法、音響学及び、スタジオ実習による</p> <p>実践的オペレーション、実験、研究等から総合的にレコーディングエンジニアの基礎を習得していく。</p> <p>【実務経験】大学卒業後、ドラマー、PAエンジニアの仕事につく。後にアルケミースタジオを設立。以後、レコーディングエンジニアを主に、レコーディングエンジニア、マスタリングエンジニア、PAエンジニア、ドラマーとして活動。</p>		
回数	授業形態	内容	
1	演習	レコーディングスタジオのシステム1	
2	演習	レコーディングスタジオのシステム2	
3	演習	デジタル機器について	
4	演習	コネクター、ケーブル、パッチベイについて/ ケーブル作成	
5	演習	音について1	
6	演習	音について2	
7	演習	マイクロフォンについて2	
8	演習	モノラル、ステレオ、マルチマイクについて	
9	演習	マイクアレンジ1	
10	演習	マイクアレンジ2	
11	演習	ミキシングについて	
12	演習	ミキシングについて	
13	演習	総括	
14	演習	ワークショップ	
15	演習	ワークショップ	
準備学習 時間外学習	音楽鑑賞、コンサート、ライブ鑑賞		
成績評価	1. 実技試験(%) 2. 筆記試験(%) 3. 課題(%)	前期: 筆記試験(100%) 後期: 実技試験(100%)	
教材	教科書	音響設備マニュアル	
	参考書		
学生への メッセージ	前期ではスタジオのシステムの理解、レコーディングエンジニアに必要な基礎知識を中心の授業展開になり、後期の後半では小編成のレコーディングができるところまでを目標にします。		

カレッジ音楽科昼間 I 部 シラバス

科目名	音響(REC実践)	担当教員名	福岡 直子
時間数	60	必修・選択	配当年次
曜日・時限		必修	教室
授業の到達目標	501		
授業の内容	Pro Toolsの基本操作の習得、コンピューターの基礎知識の習得		
授業の内容	※実務経験のある教員、知見を有する教員が、どのような授業を実施するのか、具体的に記載する音楽制作における「DAW」。そのシステムで使用されるアプリケーションの一つである「Pro Tools」を中心に、付随する周辺機器、関連アプリケーション、コンピューターの知識、ファイル管理の基礎を習得。		
【実務経験】	2000年大阪スクールオブミュージック専門学校を卒業後、VISTA STUDIOに2年勤務、2002年からアルケミースタジオに所属。サウンドエンジニアとして様々なアーティストのレコーディング、ミックス、マスタリングを手掛ける。		
回数	授業形態	内容	
1	演習	DAW(Pro Tools、コンピューター、周辺機器)とは?、実習室の信号の流れについて学ぶ。	
2	演習	Pro Toolsのファイル(セッション)を作成、保存。必要な各種設定を学ぶ。	
3	演習	Pro Toolsのファイル(セッション)を開く。「ミックス」画面構成を学ぶ。	
4	演習	「編集」画面 編集モード、編集ツール、スマートツール、編集コマンド。音声データ編集実践	
5	演習	音声ファイル形式(応用)。セッションの保存(応用)を学ぶ。	
6	演習	遅延(レイテンシー)について(AD/DA、遅延補正)。DAWでの「録音」について学ぶ。	
7	演習	「ミックス」画面トラック構成、「編集」画面 オフラインオートメーションを学ぶ。	
8	演習	プラグイン、エクスポートの種類(オーディオ、MIDI)、バウンスを学ぶ。	
9	演習	課題のレコーディング、ミックス	
10	演習	課題のレコーディング、ミックス	
11	演習	課題のレコーディング、ミックス	
12	演習	課題提出	
13	演習	前期総復習	
14	演習	ワークショップ	
15	演習	ワークショップ	
準備学習 時間外学習	毎回授業内容を復習して、次の授業に反映させる習慣を身につけましょう		
成績評価	1. 実技試験(%) 2. 筆記試験(%) 3. 課題(%)	3) 課題 100%	
教材	教科書		
	参考書	音響設備マニュアルなど	
学生への メッセージ	コンピューターに慣れていなくても、手順に沿って進めると基本操作が身につきます。 経験者は今までの知識の再確認と、さらなるスキルアップを目指しましょう。		

カレッジ音楽科昼間 I 部 シラバス

科目名	音響(REC実践)	担当教員名	福岡 直子
時間数	60	必修・選択	配当年次
曜日・時限		必修	教室
授業の到達目標	501		
Pro Toolsの基本操作の習得、コンピューターの基礎知識の習得			
授業の内容	※実務経験のある教員、知見を有する教員が、どのような授業を実施するのか、具体的に記載する音楽制作における「DAW」。そのシステムで使用されるアプリケーションの一つである「Pro Tools」を中心に、付随する周辺機器、関連アプリケーション、コンピューターの知識、ファイル管理の基礎を習得。		
【実務経験】2000年大阪スクールオブミュージック専門学校を卒業後、VISTA STUDIOに2年勤務、2002年からアルケミースタジオに所属。サウンドエンジニアとして様々なアーティストのレコーディング、ミックス、マスタリングを手掛ける。			
回数	授業形態	内容	
1	演習	デジタルソース/クロックリファレンスについて	
2	演習	MIDIについて	
3	演習	同期(タイムコード)	
4	演習	Pro ToolsとDAW(基礎)	
5	演習	Pro ToolsとDAW(応用)	
6	演習	Pro Tools/エフェクト(Plug-in)(基礎)	
7	演習	Pro Tools/エフェクト(Plug-in)(応用)	
8	演習	Pro Tools/エフェクト(Plug-in)(応用2)	
9	演習	Pro Tools/編集(応用1)	
10	演習	Pro Tools/編集(応用2)	
11	演習	Pro Tools/編集(応用3)	
12	演習	Pro Tools/ファイル管理(応用)	
13	演習	総括	
14	演習	ワークショップ	
15	演習	ワークショップ	
準備学習 時間外学習	毎回授業内容を復習して、次の授業に反映させる習慣を身につけましょう		
成績評価	1. 実技試験(%) 2. 筆記試験(%) 3. 課題(%)	3) 課題 100%	
教材	教科書		
	参考書	音響設備マニュアルなど	
学生への メッセージ	コンピューターに慣れていなくても、手順に沿って進めると基本操作が身につきます。 経験者は今までの知識の再確認と、さらなるスキルアップを目指しましょう。		

カレッジ音楽科昼間 I 部 シラバス

科目名	音響(Pro Tool s)	担当教員名	福岡 直子
時間数	60	必修・選択	配当年次
曜日・時限		必修	教室
授業の到達目標	Pro Tool sの基本操作の習得、コンピューターの基礎知識の習得		
授業の内容	※実務経験のある教員、知見を有する教員が、どのような授業を実施するのか、具体的に記載する音楽制作における「DAW」。そのシステムで使用されるアプリケーションの一つである「Pro Tool s」を中心に、付随する周辺機器、関連アプリケーション、コンピューターの知識、ファイル管理の基礎を習得。		
	【実務経験】2000年大阪スクールオブミュージック専門学校を卒業後、VISTA STUDIOに2年勤務、2002年からアルケミースタジオに所属。サウンドエンジニアとして様々なアーティストのレコーディング、ミックス、マスタリングを手掛ける。		
回数	授業形態	内容	
1	演習	DAW(Pro Tools、コンピューター、周辺機器)とは？、実習室の信号の流れについて学ぶ。	
2	演習	Pro Toolsのファイル(セッション)を作成、保存。必要な各種設定を学ぶ。	
3	演習	Pro Toolsのファイル(セッション)を開く。「ミックス」画面構成を学ぶ。	
4	演習	「編集」画面 編集モード、編集ツール、スマートツール、編集コマンド。音声データ編集実践	
5	演習	音声ファイル形式(応用)。セッションの保存(応用)を学ぶ。	
6	演習	遅延(レイテンシー)について(AD/DA、遅延補正)。DAWでの「録音」について学ぶ。	
7	演習	「ミックス」画面トラック構成、「編集」画面 オフラインオートメーションを学ぶ。	
8	演習	プラグイン、エクスポートの種類(オーディオ、MIDI)、バウンスを学ぶ。	
9	演習	課題のレコーディング、ミックス	
10	演習	課題のレコーディング、ミックス	
11	演習	課題のレコーディング、ミックス	
12	演習	課題提出	
13	演習	前期総復習	
14	演習	ワークショップ	
15	演習	ワークショップ	
準備学習 時間外学習	毎回授業内容を復習して、次の授業に反映させる習慣を身につけましょう		
成績評価	1. 実技試験(%) 2. 筆記試験(%) 3. 課題(%)	3) 課題 100%	
教材	教科書		
	参考書	音響設備マニュアルなど	
学生への メッセージ	コンピューターに慣れていなくても、手順に沿って進めると基本操作が身につきます。 経験者は今までの知識の再確認と、さらなるスキルアップを目指しましょう。		

カレッジ音楽科昼間 I 部 シラバス

科目名	音響(Pro Tool s)	担当教員名	福岡 直子
時間数	60	必修・選択	配当年次
曜日・時限		必修	教室
授業の到達目標	501		
Pro Tool sの基本操作の習得、コンピューターの基礎知識の習得			
授業の内容	※実務経験のある教員、知見を有する教員が、どのような授業を実施するのか、具体的に記載する音楽制作における「DAW」。そのシステムで使用されるアプリケーションの一つである「Pro Tool s」を中心に、付随する周辺機器、関連アプリケーション、コンピューターの知識、ファイル管理の基礎を習得。		
【実務経験】2000年大阪スクールオブミュージック専門学校を卒業後、VISTA STUDIOに2年勤務、2002年からアルケミースタジオに所属。サウンドエンジニアとして様々なアーティストのレコーディング、ミックス、マスタリングを手掛ける。			
回数	授業形態	内容	
1	演習	DAW(Pro Tools、コンピューター、周辺機器)とは？、実習室の信号の流れについて学ぶ。	
2	演習	Pro Toolsのファイル(セッション)を作成、保存。必要な各種設定を学ぶ。	
3	演習	Pro Toolsのファイル(セッション)を開く。「ミックス」画面構成を学ぶ。	
4	演習	「編集」画面 編集モード、編集ツール、スマートツール、編集コマンド。音声データ編集実践	
5	演習	音声ファイル形式(応用)。セッションの保存(応用)を学ぶ。	
6	演習	遅延(レイテンシー)について(AD/DA、遅延補正)。DAWでの「録音」について学ぶ。	
7	演習	「ミックス」画面トラック構成、「編集」画面 オフラインオートメーションを学ぶ。	
8	演習	プラグイン、エクスポートの種類(オーディオ、MIDI)、バウンスを学ぶ。	
9	演習	課題のレコーディング、ミックス①	
10	演習	課題のレコーディング、ミックス②	
11	演習	課題のレコーディング、ミックス③	
12	演習	課題提出	
13	演習	前期総復習	
14	演習	ワークショップ	
15	演習	ワークショップ	
準備学習 時間外学習	毎回授業内容を復習して、次の授業に反映させる習慣を身につけましょう		
成績評価	1. 実技試験(%) 2. 筆記試験(%) 3. 課題(%)	3) 課題 100%	
教材	教科書		
	参考書	音響設備マニュアルなど	
学生への メッセージ	コンピューターに慣れていなくても、手順に沿って進めると基本操作が身につきます。 経験者は今までの知識の再確認と、さらなるスキルアップを目指しましょう。		

カレッジ音楽科昼間 I 部 シラバス

科目名	企画(作詞技法 I)		担当教員名	木下 智哉
時間数	30	必修・選択	配当年次	1年次 前期
曜日・時限		必修	教室	601
授業の到達目標	作詞に関する基礎知識の習得。			
授業の内容	※実務経験のある教員、知見を有する教員が、どのような授業を実施するのか、具体的に記載する 作詞のベーシックを覚える。作詞の制作行程を段階にわけて学ぶ。言葉探しの技を学ぶ。 【実務経験】作詞・作曲・編曲・サウンドプロデューサー／SCOOP MUSIC所属。／2000年、エレポップ三人組ユニット「epidemic」でポニーキャニオンからデビュー。5年に及ぶユニット活動休止後、作家として活動を開始。関西を拠点に作詞、作曲、プロデュース等を手がける。／浜崎あゆみ、中川翔子、V6、NEWS、HeySayJump、AAA等の数々のアーティストへの楽曲提供やアニメの音楽制作などを手がける。			
日程	授業形態	内容		
1	講義	授業概要／作詞概論		
2	講義	作詞技法.1／作詞基礎、自分言葉の認識		
3	講義	作詞技法.2-1／言葉の連想法／類語の使い方		
4	講義	作詞技法.2-2／字数の変更トレーニング／類語トレーニング		
5	講義	作詞技法.3／字数と1音の使い方		
6	講義	作詞技法.4／ワンワードからの連想による構成の作り方		
7	講義	作詞技法.5-1／5W1Hの法則、起承結の構成		
8	講義	作詞技法.5-2／起承結を使ったワンコーラス作詞制作		
9	講義	作詞技法.5-3／起承結を使ったワンコーラス作詞制作／添削		
10	講義	作詞技法.6／言葉のリズムとブロック／言葉のダイエット		
11	講義	作詞技法.7-1／比喻表現、擬人化		
12	講義	作詞技法.7-2／比喻表現トレーニング／添削		
13	講義	作詞技法.8／タイトルのつけ方		
14	講義	ワークショップ		
15	講義	ワークショップ		
準備学習 時間外学習	課題制作用に渡されたデータを整理し、授業外の時間で積極的に復習に使用する			
成績評価	1. 実技試験(%) 2. 筆記試験(%) 3. 課題(%)	3. 課題100%		
教材	教科書	授業時に配布するプリント各種。		
	参考書	なし		
学生への メッセージ	言葉を意識して探す、そのトレーニングを積んでいきましょう。			

カレッジ音楽科昼間 I 部 シラバス

科目名	企画(作詞技法 I)		担当教員名	木下 智哉
時間数	30	必修・選択	配当年次	1年次 後期
曜日・時限		必修	教室	601
授業の到達目標	作詞に関する基礎知識の習得。			
授業の内容	※実務経験のある教員、知見を有する教員が、どのような授業を実施するのか、具体的に記載する 作詞のベーシックを覚える。作詞の制作行程を段階にわけて学ぶ。言葉探しの技を学ぶ。 【実務経験】作詞・作曲・編曲・サウンドプロデューサー／SCOOP MUSIC所属。／2000年、エレポップ三人組ユニット「epidemic」でポニーキャニオンからデビュー。5年に及ぶユニット活動休止後、作家として活動を開始。関西を拠点に作詞、作曲、プロデュース等を手がける。／浜崎あゆみ、中川翔子、V6、NEWS、HeySayJump、AAA等の数々のアーティストへの楽曲提供やアニメの音楽制作などを手がける。			
日程	授業形態	内容		
1	演習	作詞技法.10／ジャンル別による表現法／ラップ、韻について／韻化トレーニング		
2	演習	韻化トレーニング／Rap詞制作		
3	演習	Rap詞制作／添削 /感想の書き合い		
4	演習	作詞技法.11／童謡、キッズソングに見る作詞法		
5	演習	キッズソング作成トレーニング		
6	演習	作詞技法.12／英語詞と日本語詞を混ぜたハイブリッド作詞法		
7	演習	ハイブリッド作詞トレーニング1コーラス、字数の確認		
8	演習	作詞技法.13／CMソングに見る作詞法 /CMソング作成トレーニング		
9	演習	CMソング作成トレーニング／添削&提出		
10	演習	OUTPUTレビュー. 2 /価値観アンケート		
11	演習	作詞実践.3／フルコーラス制作		
12	演習	作詞実践.3／フルコーラス制作 /添削 /感想の書き合い		
13	演習	作詞技法まとめトレーニング集		
14	演習	ワークショップ		
15	演習	ワークショップ		
準備学習 時間外学習	課題制作用に渡されたデータを整理し、授業外の時間で積極的に復習に使用する			
成績評価	1. 実技試験(%) 2. 筆記試験(%) 3. 課題(%)	3. 課題100%		
教材	教科書	授業時に配布するプリント各種。		
	参考書	なし		
学生への メッセージ	言葉を意識して探す、そのトレーニングを積んでいきましょう。			

カレッジ音楽科昼間 I 部 シラバス

科目名	企画(作曲技法 I)		担当教員名	小林 哲
時間数	30	必修・選択	配当年次	1年次 前期
曜日・時限		必修	教室	803
授業の到達目標	読譜能力、基礎理論の習得。自作曲への応用。			
授業の内容	※実務経験のある教員、知見を有する教員が、どのような授業を実施するのか、具体的に記載する 曲作りにダイレクトに活用、応用できるポピュラー音楽理論の習得。(音名～Scale、Interval) 【実務経験】作編曲家。1998年のデビュー以降、ZARDをはじめビーイング系アーティストの編曲を数多く手がける。1999年より母校でもある大阪スクールオブミュージック専門学校にて作、編曲の講師を務め現在に至る。Steinberg 認定講師。			
回数	授業形態	内容		
1	演習	音名、音部記号の学習		
2	演習	派生音、音休符の種類		
3	演習	拍子		
4	演習	速度記号、反復記号		
5	演習	略記号、奏法記号、装飾記号、強弱記号		
6	演習	Major Scale		
7	演習	Major Scale、5度圏、調号		
8	演習	導音、Natural Minor Scale		
9	演習	Harmonic Minor Scale、Melodic Minor Scale		
10	演習	Scaleまとめ、Interval		
11	演習	Interval、複音程		
12	演習	総復習		
13	演習	前期内容について、筆記試験		
14	演習	ワークショップ		
15	演習	ワークショップ		
準備学習 時間外学習	講義内容を音でも確認する。			
成績評価	1. 実技試験(%) 2. 筆記試験(%) 3. 課題(%)	2. 筆記試験 100%		
教材	教科書			
	参考書			
学生への メッセージ	音楽家として必要な知識を得る為の科目です。 音楽家同士の共通言語として、コミュニケーションをスムーズに行う為の 必須アイテムとも言えます。 真剣に取り組んで下さい。			

カレッジ音楽科昼間 I 部 シラバス

科目名	企画(作曲技法 I)		担当教員名	小林 哲
時間数	30	必修・選択	配当年次	1年次 後期
曜日・時限		必修	教室	803
授業の到達目標	読譜能力、基礎理論の習得。自作曲への応用。			
授業の内容	※実務経験のある教員、知見を有する教員が、どのような授業を実施するのか、具体的に記載する 曲作りにダイレクトに活用、応用できるポピュラー音楽理論の習得。(音名～Scale、Interval) 【実務経験】作編曲家。1998年のデビュー以降、ZARDをはじめビーイング系アーティストの編曲を数多く手がける。1999年より母校でもある大阪スクールオブミュージック専門学校にて作、編曲の講師を務め現在に至る。Steinberg 認定講師。			
回数	授業形態	内容		
1	演習	基礎理論の学習		
2	演習	基礎理論の学習		
3	演習	基礎理論の学習		
4	演習	基礎理論の学習		
5	演習	基礎理論の学習		
6	演習	基礎理論の学習		
7	演習	基礎理論の学習		
8	演習	既存曲を分析し、効果的なDiatonic Chordの使い方を学ぶ		
9	演習	既存曲を分析し、効果的なDiatonic Chordの使い方を学ぶ		
10	演習	基礎理論の学習		
11	演習	基礎理論の学習		
12	演習	後期内容の復習		
13	演習	後期内容についてのレポート作成		
14	演習	ワークショップ		
15	演習	ワークショップ		
準備学習 時間外学習	講義内容を音でも確認する。			
成績評価	1. 実技試験(%) 2. 筆記試験(%) 3. 課題(%)	2、筆記試験 100%		
教材	教科書			
	参考書			
学生への メッセージ	音楽家として必要な知識を得る為の科目です。 音楽家同士の共通言語として、コミュニケーションをスムーズに行う為の 必須アイテムとも言えます。 真剣に取り組んで下さい。			

カレッジ音楽科昼間 I 部 シラバス

科目名	OA実習(デザイン制作 I)		担当教員名	澤本美代子
時間数	60	必修・選択	配当年次	1年次 前期
曜日・時限			教室	601教室
授業の到達目標	<p>PCの各種アプリケーションの操作を学び、デジタルデータを目的に合わせて活用できるようになる。 課題制作を通じて、仕事のワークフローを理解する。</p>			
授業の内容	<p>※実務経験のある教員、知見を有する教員が、どのような授業を実施するのか、具体的に記載する教科書を用いた講義とPC・iPad等マルチデバイスを使っての各種アプリケーションの使い方を学習する。 素材の入手、加工を含め、データの扱い方を学び、各種制作物の演習で実践方法を学ぶ。</p>			
【実務経験】	<p>出版社の制作部門でディレクションを担当。アナログから完全デジタルデータ入稿への移行を通じ、各種アプリケーションを習得。</p>			
回数	授業形態	内容		
1	演習	授業概要、601教室の使い方、Macの基本操作、グラフィックアプリ(ドロー系とペイント系)の知識		
2	演習	各種デバイスのデータのPCへの転送方法(ギガファイル便の活用)、ファイル形式		
3	演習	イラストレーターの基本操作(画像配置・文字入力)		
4	演習	フォトショップの基本操作(レイヤー・解像度)、写真のリサイズ		
5	演習	ハガキサイズのデザイン(写真配置・クリッピングマスク・文字マスク)		
6	演習	チケット、配置図の作り方(選択ツールとダイレクト選択ツール)		
7	演習	色の学習(カラーモード)、グラデーション		
8	演習	写真画像の色調補正の基礎		
9	演習	フリー素材の活用(素材サイトの使い方、加工)		
10	演習	画像加工をメインとしたフライヤーの作成		
11	演習	画像加工をメインとしたフライヤーの作成		
12	演習	前期試験(課題制作)		
13	演習	フィードバック、前期のまとめ解説		
14	演習	ワークショップ		
15	演習	ワークショップ		
準備学習 時間外学習	<p>各種画像データの準備。 課題制作用のデータ、各種プロジェクトの制作物で積極的に実践・復習する。</p>			
成績評価	1. 実技試験(%) 2. 筆記試験(%) 3. 課題(%)	課題100%		
教材	教科書	Illustrator CS6、Photoshop CS6(VI STA ARTS発行)		
	参考書			
学生への メッセージ	<p>PC、タブレット、スマートフォンとマルチデバイスを活用出来るスキルは大きな強みになります。使用方法だけでなく、デジタルデータの扱い方、ワークフローを通じて仕事の流れ、役割も理解していきましょう。</p>			

カレッジ音楽科昼間 I 部 シラバス

科目名	英会話		担当教員名	ジャクソン・アバテマルコ
時間数	60	必修・選択	配当年次	1 年次 前期
曜日・時限		必修	教室	805
授業の到達目標	様々な場面で出てくるトピックに関して、自信を持って話せるようになる。			
授業の内容	※実務経験のある教員、知見を有する教員が、どのような授業を実施するのか、具体的に記載する 日常生活の様々な場面で使える頻度の高いコミュニケーション英語を学ぶ。			
【実務経験】	日本では2018年よりお子様や高校生を対象に英語教授経験あり。			
回数	授業形態	内容		
1	講義	L. 1 授業計画の説明、プレテスト、初対面のあいさつ～お別れまでの会話ができる。		
2	講義	L. 2 & 3 自己紹介、友人の紹介、パーソナルインフォメーションに関する一般的な質問に対する受け答えができる。		
3	講義	L. 5 & 6 好き・嫌い等の好みについての会話ができる。		
4	講義	L. 8 意見を尋ねる/意見を述べる。お誘いを受けた際の返答ができる。		
5	講義	L. 11 & 12 人を褒める&褒められた際の会話表現。(衣服など)着ているものに関して述べるができる。		
6	講義	L. 7, 13, & 14 時間について表現する。日々の習慣について話す&質問できる。		
7	講義	L. 19 & 20 道案内をする・場所を尋ねることができる。		
8	講義	L. 21 & 23 数やお金の数え方・価格や頻度についての質問や受け答えができる。		
9	講義	L. 28 料理の味や材料について&レストランでのオーダーができるようになる。		
10	講義	L. 29 & 30 過去の出来事について話す&質問できる。		
11	講義	L. 31 自分の体験について話す&それに対するリアクションや返答ができるようになる。		
12	講義	L. 32 週末や未来の予定について話すことができる。		
13	講義	総復習		
14	講義	本試験		
15	講義	試験返却、解説、ポストテスト		
準備学習 時間外学習	事前に教科書を読んでおきましょう。			
成績評価	1. 実技試験(%) 2. 筆記試験(%) 3. 課題(%)	筆記試験50%、出席50%		
教材	教科書	Speak Now!		
	参考書			
学生への メッセージ	皆さんは既にたくさんの英語を知っています。英語を話せるように、一緒に頑張りましょう！			

カレッジ音楽科昼間 I 部 シラバス

科目名	映像制作（ミュージックビデオ制作 I）		担当教員名	林 耐治
時間数	120	必修・選択	配当年次	1年次 前期
曜日・時限			教室	A503
授業の到達目標	<p>映像を制作していく上で、最低限必要とされる知識の習得。</p> <p>撮影、編集、CGの基礎的な技術の習得。</p> <p>映像作品を形成する、シーン構成、構図、色、カッティング、カメラワーク、被写体への演出などの意味を理解。</p>			
授業の内容	<p>※実務経験のある教員、知見を有する教員が、どのような授業を実施するのか、具体的に記載する</p> <p>ドラマ、CM イベントやコンサート 動画、ドキュメンタリー、ライブ中継と豊富な経験をもとに映像制作のノウハウを多岐にわたって指導していきます。講義と演習にて、講義では映像制作に必要な知識や考え方、演出方法などを教えます。実習は2種類。1つ目は、デフォルトとして毎回、課題を与え、iPadを利用して全員に30秒～1分程度の映像作品を制作してもらいます。もう一つは、スペシャルとして前期、後期各期に1作品、外部のスタジオなどを利用してPVを制作します。これは、学生全員で監督、プロデューサー、カメラ、編集などの役割を決め、1つの音楽作品を作る大掛かりな取り組みです。</p> <p>【実務経験】 ドラマ・CM イベントやコンサート 動画、ドキュメンタリー、ライブ中継など</p>			
回数	授業形態	内容		
1	演習	映像についての概要とimovieの使い方を指導。課題音楽をベースに簡単なPVを制作。		
2	演習	編集についての基礎(カッティングとモンタージュ)		
3	演習	撮影についての基礎1(構図)		
4	演習	撮影についての基礎2(カメラワーク)		
5	演習	絵コンテを描いて撮る①(対話シーン、単純な人物の動き)		
6	演習	絵コンテを描いて撮る②(複雑な人物の動き)		
7	演習	撮った映像を編集する。ADOBE PremiereとAfter Effects①		
8	演習	撮った映像を編集する。ADOBE PremiereとAfter Effects②		
9	演習	撮った映像を編集する。ADOBE PremiereとAfter Effects③		
10	演習	簡単なミュージックビデオ制作		
11	演習	簡単なミュージックビデオ制作		
12	演習	簡単なミュージックビデオ制作		
13	演習	簡単なミュージックビデオ制作		
14	演習	ワークショップ		
15	演習	ワークショップ		
準備学習 時間外学習	制作した映像を見て、詳細におよぶ振り返り			
成績評価	1. 実技試験(%) 2. 筆記試験(%) 3. 課題(%)	1. 授業に対する取り組み姿勢 50% 2. 授業内で制作する作品および提出課題の出来 50%		
教材	教科書	講師より適時、プリントを配布		
	参考書	月刊誌 ビデオサロン (玄光社より毎月 発行)		
学生への メッセージ	授業名は「ミュージックビデオ制作」ですが、MMには総合的な能力が求められます。よって、まず基本的な映像制作のノウハウを教えます。本格的なMM制作に取り組んでいきます。教わる、学ぶ、自分でやってみる、人から批評される。ひたすら、この繰り返しです。映像業界への就職のためには授業以外の時間でも、自主制作に取り組むことが不可欠です。			

カレッジ音楽科昼間 I 部 シラバス

科目名	放送(番組制作)	担当教員名	藤田祐司
時間数	120	必修・選択	配当年次
曜日・時限			1年次 前期
授業の到達目標	教室		
授業の内容	メディアセンター・ワン・スタジオ		
<p>・ 企画書作成の基礎知識と作成能力の育成。プレゼンテーションテクニックの習得</p> <p>・ Web配信番組制作を通して、TV番組の組み立て方と基礎知識を習得</p> <p>・ カメラワーク、編集テクニックなど機材の基本操作術と、編集ソフト等の基礎的な使用方法の習得</p> <p>・ チームでの制作実習を通して、各役割の仕事内容とチームプレイの重要性を習得</p>			
<p>※実務経験のある教員、知見を有する教員が、どのような授業を実施するのか、具体的に記載する</p> <p>ニッポン放送からスカパー局長を経て、番組・音楽制作の現場30年以上の実践の中で体感してきたこの業界は、近年、大きな変革期を向かえています。特に今後増々需要が高まるWeb配信はこの業界の大きなアイテムです。この授業では実際に番組制作現場で使われている映像中継システムを使い、学生たちの企画する番組を全世界に向けて配信します。発想をどのように企画し具現化していくか、そしてそれらを技術力でどう表現するか…。多くの人々に感動を届けるTVマンの世界を理論と感性で実践し、チームでのコミュニケーション能力を身に付けながら、これからの番組制作現場で必要とされる人材の育成を目指します。</p>			
回数	授業形態	内容	
1	演習	1年間の授業内容と目標 / 自己紹介 / TV番組制作の世界(各役割紹介)	
2	演習	発想を具現化し、実現するためのツール【企画書の作成基礎】	
3	演習	実際の生放送の番組制作現場を見学【役割とチームプレイ】	
4	演習	機材に触れよう1(放送カメラを使って撮影の基礎を学ぶ)	
5	演習	機材に触れよう2(編集機材を使って編集の基礎を学ぶ)	
6	演習	ショートムービーの制作に挑戦!(チーム分けと「企画書」の作成)	
7	演習	ショートムービーの制作に挑戦!(企画書に基づいた「撮影」)	
8	演習	ショートムービーの制作に挑戦!(「編集」によって作品の骨格を完成)	
9	演習	ショートムービーの制作に挑戦!(作品チェックと修正編集で作品完成)	
10	演習	ショートムービーの制作に挑戦!(完成作品の「試写」により、問題点の整理と心構えの育成)	
11	演習	番組制作の役割と適合性を知る(ディレクター、カメラマン、編集マンの役割)	
12	演習	放送局の現場をユニークに描いたドラマの試写	
13	演習	前期まとめ(後期のWeb配信番組制作に向けて)レポート課題	
14	演習	ワークショップ	
15	演習	ワークショップ	
準備学習 時間外学習	日常の中で「サプライズ」と「感動」の仕掛けを想像し、番組制作において最重要である「演出」のテクニックを考察すること。		
成績評価	1. 実技試験(%) 2. 筆記試験(%) 3. 課題(%)	1) 実技・チームワークの態度 50% 2) 制作課題 50%	
教材	教科書	実際にTV番組で使用した企画書・台本	
	参考書	実際に放送されたTV番組	
学生への メッセージ	TV番組の制作は「アイデアを生むチカラ」と「発想を具現化しカタチにする経験」が重要です。この授業で、「実践し体験し実感」しましょう。番組制作の裏話や視聴率を取るための☎話は必見!番組制作のすべてを経験してきた現役プロデューサーだからできる実践型の授業です。さあ皆さん、共に考え、共に創りましょう。皆さんの未来のために!!		

カレッジ音楽科昼間 I 部 シラバス

科目名	照明（照明概論）	担当教員名	徳永 好郎
時間数	60	必修・選択	配当年次
曜日・時限		必修	教室
授業の到達目標	舞台照明に必要な電気理論および、舞台照明設備を理解する。		
授業の内容	※実務経験のある教員、知見を有する教員が、どのような授業を実施するのか、具体的に記載する現場で即戦力となる為の舞台照明基礎知識・機材知識を身に付ける。		
講師プロフィール	昭和49年より音響業務に携わる。昭和54年、舞台・音響・照明の三業種の重要性を感じ大和ステージサービス設立。以来、市民会館の管理業務などに従事。昭和59年株式会社ディースタッフ設立。天王寺博のテクニカルディレクターを務める。現在はよしもとブロードエンターテイメント所属。		
回数	授業形態	内容	
1	演習	機材知識(構造・種類・用途について) / 器具の構造、取り扱いを理解する	
2	演習	電気知識(電圧・電流・抵抗の関係) / オームの法則などの計算式	
3	演習	機材知識(電気容量及び電流・抵抗) / 電気容量に対する電流などの関係	
4	演習	機材知識(LEDについて) / 通常の照明器具とLED機器との違いを理解する	
5	演習	電気知識(電気容量・I) / 器具などでの容量について理解する	
6	演習	照明設備(フライダクトの構造・用途) / 複数の電気回路の構造	
7	演習	電気知識(電気容量・II) / I回路での容量に対して電流の関係	
8	演習	照明設備(フライダクトの回路取り) / 机上での負荷回路の結線	
9	演習	電気知識(許容電流について) / 電線(ケーブル)と電流値の関係	
10	演習	照明設備(ケーブル・コネクタ) / (ケーブル・コネクタ)と電流値の関係	
11	演習	電気知識(直流・単相交流・三相交流) / 照明用電源について・機器制御電源について	
12	演習	照明設備(シーリング・フロント) / 舞台前での照明設備について	
13	演習	電気知識(電源について) / 照明用電源について	
14	演習	ワークショップ	
15	演習	ワークショップ	
準備学習 時間外学習	授業ノートの見直し、該当箇所の教科書を読んでから出席		
成績評価	1. 実技試験(%) 2. 筆記試験(%) 3. 課題(%)	筆記試験(50%) 出席率(30%) 授業態度(20%)	
教材	教科書	舞台テレビジョン照明の知識編及び技能編	
	参考書	舞台・テレビジョン照明(基礎編)	
学生への メッセージ	舞台照明では知識が大切なので頑張りましょう！		

カレッジ音楽科昼間 I 部 シラバス

科目名	照明（照明概論）	担当教員名	徳永 好郎
時間数	60	必修・選択	配当年次
曜日・時限		必修	教室
授業の到達目標	舞台照明に必要な電気理論および、舞台照明設備を理解する。		
授業の内容	※実務経験のある教員、知見を有する教員が、どのような授業を実施するのか、具体的に記載する 現場で即戦力となる為の舞台照明基礎知識・機材知識を身に付ける。 講師プロフィール 昭和49年より音響業務に携わる。昭和54年、舞台・音響・照明の三業種の重要性を感じ大和ステージサービス設立。以来、市民会館の管理業務などに従事。昭和59年株式会社ディースタッフ設立。天王寺博のテクニカルディレクターを務める。現在はよしもとブロードエンターテイメント所属。		
回数	授業形態	内容	
1	演習	照明設備(ホリゾントライト・フロア)	
2	演習	電気知識(電源の種類・用途について)	
3	演習	照明設備(調光器及び調光の仕方)	
4	演習	電気知識(電源と調光器について)	
5	演習	照明設備(調光設備について)	
6	演習	電気知識(調光ユニットの電源)	
7	演習	照明設備(負荷選択機構について)	
8	演習	照明設備(調光操作卓について)	
9	演習	照明設備(仮設照明設備について)	
10	演習	電気知識(電気事故・トラブル)	
11	演習	調光制御回路(DMXラインについて)	
12	演習	電気知識(トラブルなどの原因・対処)	
13	演習	照明安全作業(安全管理などについて)	
14	演習	ワークショップ	
15	演習	ワークショップ	
準備学習 時間外学習	授業ノートの見直し、該当箇所の教科書を読んでから出席		
成績評価	1. 実技試験(%) 2. 筆記試験(%) 3. 課題(%)	筆記試験(50%) 出席率(30%) 授業態度(20%)	
教材	教科書	舞台テレビジョン照明の知識編及び技能編	
	参考書	舞台・テレビジョン照明(基礎編)	
学生への メッセージ	舞台照明では知識が大切なので頑張りましょう！		

カレッジ音楽科昼間 I 部 シラバス

科目名	作曲・編曲(メロディーメイク)	担当教員名	小林 哲	
時間数	60	必修・選択	配当年次	1年次 前期
曜日・時限		必修	教室	605
授業の到達目標	Cubase の基本操作を理解し、歌モノ、インスト曲問わず、様々なタイプのメロディーを作成、プログラミング出来るようになる。 自曲のメロディーに対するコード付けを出来るようになる。			
授業の内容	※実務経験のある教員、知見を有する教員が、どのような授業を実施するのか、具体的に記載する メロディーとは何か？基本的な考え方、作成術を学んだ上で、週毎の課題に沿ったメロディーの作成を Cubase を用いて行う。 基礎的なコードワークも併せて学ぶ。 【実務経験】作編曲家。1998年のデビュー以降、ZARDをはじめビーイング系アーティストの編曲を数多く手がける。1999年より母校でもある大阪スクールオブミュージック専門学校にて作、編曲の講師を務め現在に至る。Steinberg 認定講師。			
回数	授業形態	内容		
1	演習	この授業で最低限必要になる、Cubase の基本操作の習得		
2	演習	全音符、2分音符をメインに使用したメロディーメイク／主要3和音の使い方。		
3	演習	4分、8分音符をメインに使用したメロディーメイク／主要3和音+代理和音の使い方。		
4	演習	8分、16分音符をメインに使用したメロディーメイク 1／Minor Key コードワーク		
5	演習	8分、16分音符をメインに使用したメロディーメイク 2／Secondary Dominant 追加 1		
6	演習	個別データチェック／アドバイスを踏まえたデータ修正		
7	演習	シンコペーションを用いたメロディーメイク／Secondary Dominant 追加 2		
8	演習	3拍子系のメロディーメイク／Secondary Dominant 追加 3		
9	演習	16シャッフルのメロディーメイク／Dominant Chord バリエーション 1		
10	演習	8シャッフルのメロディーメイク／Dominant Chord バリエーション 2		
11	演習	個別データチェック／アドバイスを踏まえたデータ修正		
12	演習	SDmを使った進行に対してのメロディーメイク／SDmを使った進行		
13	演習	バラード メロディーメイク 1 (Major Key 1)		
14	演習	ワークショップ		
15	演習	ワークショップ		
準備学習 時間外学習	様々なジャンルの楽曲を、好き嫌いなくメロディーに注目して聴く。 Cubase の基本操作を身体が覚えるまで何度も復習する。			
成績評価	1. 実技試験 (%) 2. 筆記試験 (%) 3. 課題 (%)	3、課題 100%		
教材	教科書	なし		
	参考書	なし		
学生への メッセージ	音楽制作の核となる、メロディーについて学ぶ科目になります。 様々なタイプのメロディーメイクにチャレンジして、自身のオリジナル曲に活かして行きましょう。			

カレッジ音楽科昼間 I 部 シラバス

科目名	作曲・編曲(メロディメイク)	担当教員名	小林 哲	
時間数	60	必修・選択	配当年次	1年次 後期
曜日・時限		必修	教室	605
授業の到達目標	Cubase の基本操作を理解し、歌モノ、インスト曲問わず、様々なタイプのメロディーを作成、プログラミング出来るようになる。 自曲のメロディーに対するコード付けを出来るようになる。			
授業の内容	※実務経験のある教員、知見を有する教員が、どのような授業を実施するのか、具体的に記載する メロディーとは何か？基本的な考え方、作成術を学んだ上で、週毎の課題に沿ったメロディーの作成を Cubase を用いて行う。 基礎的なコードワークも併せて学ぶ。 【実務経験】作編曲家。1998年のデビュー以降、ZARDをはじめビーイング系アーティストの編曲を数多く手がける。1999年より母校でもある大阪スクールオブミュージック専門学校にて作、編曲の講師を務め現在に至る。Steinberg 認定講師。			
回数	授業形態	内容		
1	演習	内容に沿った8～16小節のメロディー作成		
2	演習	内容に沿った8～16小節のメロディー作成		
3	演習	アドバイスを踏まえたデータ修正		
4	演習	内容に沿った8～18小節のメロディー作成		
5	演習	フルコーラス楽曲完成に向けて授業内容分制作進行		
6	演習	フルコーラス楽曲完成に向けて授業内容分制作進行		
7	演習	フルコーラス楽曲完成に向けて授業内容分制作進行		
8	演習	アドバイスを踏まえたデータ修正		
9	演習	フルコーラス楽曲完成に向けて授業内容分制作進行		
10	演習	フルコーラス楽曲完成に向けて授業内容分制作進行		
11	演習	フルコーラス楽曲完成に向けて授業内容分制作進行		
12	演習	フルコーラス楽曲完成に向けて授業内容分制作進行		
13	演習	アドバイスを踏まえたデータ修正		
14	演習	ワークショップ		
15	演習	ワークショップ		
準備学習 時間外学習	様々なジャンルの楽曲を、好き嫌いなくメロディーに注目して聴く。 Cubase の基本操作を身体が覚えるまで何度も復習する。			
成績評価	1. 実技試験(%) 2. 筆記試験(%) 3. 課題(%)	3、課題 100%		
教材	教科書	なし		
	参考書	なし		
学生への メッセージ	音楽制作の核となる、メロディーについて学ぶ科目になります。 様々なタイプのメロディーメイクにチャレンジして、自身のオリジナル曲に活かして行きましょう。			

カレッジ音楽科昼間 I 部 シラバス

科目名	楽器レッスン(ファンデーションGtr)		担当教員名	浅沼毅一
時間数	30	必修・選択	配当年次	1年次
曜日・時限		選択	教室	E N 232
授業の到達目標	簡単なメロディの演奏(単音)が出来るようになること。簡単なコード譜に合わせて適切なスタイルのリズムで伴奏(和音)が出来るようになること。また実際の譜面を通してプロミュージシャンとして必要な最低限の楽譜の知識や理論も身につける。			
授業の内容	※実務経験のある教員、知見を有する教員が、どのような授業を実施するのか、具体的に記載する ギター未経験者、初級レベルの学生を対象に、エクササイズや課題曲を通してギターを弾くために必要な知識やテクニックを段階に応じて学んでいきます。4beat、8beat、16beat rhythmなどの演奏スタイルに特化した課題曲を演奏する事でそれぞれの違いを体感し学びます。			
【実務経験】大阪スクールオブミュージック卒業後渡米、Berklee音楽大学へ入学。2002年パフォーマンス科を優等で卒業後帰国、各種演奏の仕事に参加。2002年より母校である大阪スクールオブミュージックにて教鞭をとる。				
回数	授業形態	内容		
1	演習	ギターの各部位の名称、仕組み、チューニング、ピックの持ち方、ギターの構え方		
2	演習	ピックで任意の弦を弾く(単音、和音) パワーコード(Root+5th)		
3	演習	コード進行に合わせてコードチェンジ(コードは3つ程度)		
4	演習	右手のストローク・リズム(全音符、二分音符、四分音符、八分音符)		
5	演習	ピッキングヴァリエーション(ダウン、アップ、オルタネイト)		
6	演習	ブリッジミュートなどの右手のテクニック		
7	演習	実際にアンプで音を出してみる		
8	演習	16th note feel		
9	演習	シンコペーション、右手のストローク(空ピッキング、カッティング)		
10	演習	5弦、6弦の音名、ポジションの拡張(12フレットまで)		
11	演習	オープンコード、セーハーコード		
12	演習	課題曲のおさらい		
13	演習	総復習		
14	演習	ワークショップ		
15	演習	ワークショップ		
準備学習 時間外学習	授業で学んだことを自分なりに整理し明確にする。			
成績評価	1. 実技試験(%) 2. 筆記試験(%) 3. 課題(%)	授業内評価		
教材	教科書	オリジナルの資料		
	参考書			
学生へのメッセージ	授業内で思うように弾けなくても大丈夫です。将来たのしくギターを演奏出来るように必要なテクニックについて課題曲を通して一歩ずつ学んで行きましょう。			

カレッジ音楽科昼間 I 部 シラバス

科目名	楽器レッスン(ファンデーションKey)		担当教員名	中山 智義
時間数	30	必修・選択	配当年次	1年次
曜日・時限		選択	教室	E N 332
授業の到達目標	<p>弾き語りの演奏ができる。 弾き語りに必要なコードの展開、多様な音階を理解する。 弾き語りに必要な演奏力を養うための練習を行う。</p>			
授業の内容	<p>※実務経験のある教員、知見を有する教員が、どのような授業を実施するのか、具体的に記載する 全体でのスケール練習。コード演習。ピアノ曲の練習等。</p>			
<p>【実務経験】大阪芸術大学在学中より、佐川満男、増田俊郎等のバックメンバーとして音楽活動を開始。OSM開校当初より、キーボード科講師として後進の育成にあたる。1990年以降には、音楽制作ユニット”Groovers”にて多くのCM、映画、テレビドラマ、ゲーム等の楽曲制作を手掛ける。近年では、「Too young to die!若くして死ぬ」「ナミヤ雑貨店の軌跡」等、映画中での演奏を担当する。</p>				
回数	授業形態	内容		
1	演習	授業説明 到達目標について 音名音階の説明		
2	演習	復習 音階の練習(メジャースケール)		
3	演習	スケールの練習 C~B(白鍵)コードの説明メジャー、マイナー		
4	演習	スケールの練習 コードの演習(トライアド)		
5	演習	スケールの練習 楽曲1を使って演奏の練習		
6	演習	スケールの練習 楽曲1を使って演奏の練習		
7	演習	スケールの練習 楽曲1を使って演奏の練習		
8	演習	スケールの練習 楽曲1を使って演奏の練習		
9	演習	スケールの練習(any key)		
10	演習	スケールの練習 セブンスコードの説明		
11	演習	スケールの練習 楽曲2を使って演奏の練習		
12	演習	スケールの練習 楽曲2を使って演奏の練習		
13	演習	実技テスト		
14	演習	ワークショップ		
15	演習	ワークショップ		
準備学習 時間外学習	なるべく自宅、学校等で鍵盤に触れて下さい！			
成績評価	1. 実技試験(%) 2. 筆記試験(%) 3. 課題(%)	実技試験40% 筆記試験40% 課題20%		
教材	教科書			
	参考書	指定する楽譜等		
学生への メッセージ	基本的なキーボードの考え方、奏法を身に付けて自分の音楽や曲作りに役立てて下さい。			

カレッジ音楽科昼間 I 部 シラバス

科目名	楽器レッスン(ヴォイストレーニング)	担当教員名	桜田ヒロキ
時間数	30	必修・選択	配当年次
曜日・時限		必修	教室
授業の到達目標	EN531		
授業の内容	<p>・声の発せられるメカニズムの理解 ・自分の行うべき改善目標の具体化 ・具体化された目標を実際に到達させるためのトレーニングの日常化(トレーニング・メニューは別途お送りします)・隔週で個別に声の状態を確認し、常に的確なエクササイズの割り当てを目指す</p> <p>※実務経験のある教員、知見を有する教員が、どのような授業を実施するのか、具体的に記載する ハリウッド式ボイストレーニング(Vocalize Uで使われる発声理論)を用いて音域の拡大・音色の改善・声量の増強を行う</p> <p>【実務経験】 マイケル・ジャクソン、スティービー・ワンダーのコーチSeth Riggsのトレーニングメソッドの日本人2人目の公認インストラクター。アーティスト担当、ライブ帯同多数。</p>		
回数	授業形態	内容	
1	演習	セミナー形式でそれぞれの悩みを聞き、実際に解決。前期に行うメニューのオーバービューを見せる	
2	演習	トレーニング・メニュー、声の弱点タイプの理解(別紙参照)	
3	演習	トレーニング・メニュー(別紙参照)、エクササイズの割り当て	
4	演習	トレーニング・メニュー(別紙参照)、生理学的な声帯の動きを理解する	
5	演習	トレーニング・メニュー(別紙参照)、エクササイズの割り当て	
6	演習	トレーニング・メニュー(別紙参照)、ビブラートに対する理解・エクササイズ	
7	演習	トレーニング・メニュー(別紙参照)、エクササイズの割り当て	
8	演習	トレーニング・メニュー(別紙参照)、ボイストレーニングにおける母音の考え方	
9	演習	トレーニング・メニュー(別紙参照)、エクササイズの割り当て	
10	演習	トレーニング・メニュー(別紙参照)、音階練習・音程の考え方	
11	演習	トレーニング・メニュー(別紙参照)、エクササイズの割り当て	
12	演習	トレーニング・メニュー(別紙参照)、トレーニングにおける音程音階を理解した上で適切な練習曲の選び方を理解する	
13	演習	トレーニング・メニュー(別紙参照)、エクササイズの割り当て	
14	演習	トレーニング・メニュー(別紙参照)、semi-occludedエクササイズの音声学的な解説(リップバブル・ストローエクササイズなど)	
15	演習	トレーニング・メニュー(別紙参照)、エクササイズの割り当て	
準備学習 時間外学習	個人練習		
成績評価	1. 実技試験(%) 2. 筆記試験(%) 3. 課題(%)	出席率を評価得点とし、優秀者には追加点	
教材	教科書		
	参考書	Singing for the stars (Seth Riggs), Vocalogy (Ingo Titze), Singing Success (Brett Manning), Ultimate Voice Training for singers (Billy Purnell)	
学生へのメッセージ	発声法を学ぶだけでなく、音声学や生理学の観点からも声について学習し、自分で声をトレーニングできるようになる事を目指しましょう。理論までしっかり固めておけば、卒業後にトレーナーとして働く事も出来ますよ!		

カレッジ音楽科昼間 I 部 シラバス

科目名	楽器レッスン(ヴォーカルテクニック)	担当教員名	山本尚希
時間数	30	必修・選択	配当年次
曜日・時限			1年次
授業の到達目	教室		
授業の内容	EN531		
<p>発声・歌唱力の技術を使い、課題曲(コーラスがある曲を選択)行う。ハーモニーを聞く力、どうなれより美しくアンサンブルできるようにする。またそれにとまなう譜面を読む力、コーラスを行う、チームメイト・パートナーとの成長に繋がるコミュニケーション能力を高める。</p> <p>授業の内容 ※実務経験のある教員、知見を有する教員が、どのような授業を実施するのか、具体的に記載する それぞれがベストを尽くして、行う事をゴールとして、課題曲の模範演奏をし、生徒達に完成の形または、なりたい景色を想像させて、音楽知識、発声の技術を使いながら、会話、ハーモニーを作る、生徒により個人差があるが、個々に成長に向けた課題をあたえ、チャレンジし続ける環境を作る。この授業内では、指摘、しかる、責める環境を作らず、彼からが自主的に、挑戦し、学び、夢中になる環境を作る。</p> <p>【実務経験】 ゴスペルグループソウルマティックスのsinger として活動し、k-popアーティスト、劇団四季の俳優を指導。ゴダイゴ・ベーチェ Chol・ももクロ、その他業界の方との共演</p>			
回数	授業形態	内容	
1	演習	授業の方向性。内容を伝えて、理解していただく、その上で、3週間に1曲コーラスがある曲をおこなう。事を伝える。 amazing grace 30名のクラスで4チーム作成する。	
2	演習	チームごとに課題曲を発表、良かったところと次の課題を伝える。	
3	演習	課題曲発表 ソロ・ハーモニーについてのリフレクション	
4	演習	新曲提出(前回の発表を元に、個人差がある音楽知識をうめるための課題を個々にだす。	
5	演習	チームごとに課題曲を発表、良かったところと次の課題を伝える。	
6	演習	課題曲発表 ソロ・ハーモニーについてのリフレクション、チームごとに良かった事、次の課題をまとめてクラスで発表 新曲提出、コーラス音振り	
7	演習	新曲提出 難易度をあげた曲、ここでは一つ一つできる事を講師と共に増やして授業をおこなす。	
8	演習	チームごとに課題曲を発表、良かったところと次の課題を伝える。	
9	演習	チームごとに課題曲を発表、良かったところと次の課題を伝える。	
10	演習	課題曲発表 ソロ・ハーモニーについてのリフレクション、チームごとに良かった事、次の課題をまとめてクラスで発表 新曲提出、コーラス音振り	
11	演習	新曲提出	
12	演習	チームごとに課題曲を発表、良かったところと次の課題を伝える。	
13	演習	チームごとに課題曲を発表、良かったところと次の課題を伝える。	
14	演習	課題曲発表 ソロ・ハーモニーについてのリフレクション、チームごとに良かった事、次の課題をまとめてクラスで発表 新曲提出、コーラス音振り、これまでの課題曲を各々に割り当てて4チームでライブをおこなう。	
15	演習	課題曲のライブ発表会(前期のリフレクション)	
準備学習	与えられた課題曲・音域内での発声練習		
成績評価	1. 実技試験(%) 2. 筆記試験(%) 3. 課題(%)	出席率・実技試験100%	
教科書	教科書		
	参考書		
学生へのメッセージ	一人一人の声の性質を確認した上でそれぞれの方にあう、課題と成長していける過程を提示できます。才能ではなく、努力する事で仕事で成功する事を授業を通して証明していきます。		

カレッジ音楽科昼間 I 部 シラバス

科目名	進級制作 I		担当教員名	小林 哲/小松 寛史
時間数	60	必修・選択	配当年次	1年次 前期
曜日・時限			教室	301・403
授業の到達目標				
1.現場レベルで十分な対応を行えるディレクターの知識の習得、育成 2.どの分野、どの現場でも必要なコミュニケーションの重要性の確認・確立。 3.タイムスケジュール管理等の能力育成。				
授業の内容	※実務経験のある教員、知見を有する教員が、どのような授業を実施するのか、具体的に記載する			
レコーディングスタジオでの作業を通じ、コミュニケーション、ビジネスマナー、サウンドメイク技術を学習する。				
□レコーディング作業に向けての準備				
・サイズ譜/コード譜、歌詞カード等の用意				
・演奏者、歌唱者などのブックイング				
・レコーディング用データのフォーマット確認				
□作業スケジュール(タイムライン)の把握&調整				
□スタジオ内でのコミュニケーション、マナー技術の会得、習熟				
□ミックス&マスタリングの方向性や、仕上げる目標点の設定・確認				
【実務経験】				
小松 寛史:株式会社テイクセブン所属。音源制作全般における業務を担当。作編曲をメインに企業へのCM・BGM・音効提供、アーティストへの楽曲提供、レコーディング業務を担当。 ・2006年「Go Way!」倅田来未 収録アルバムがオリコンチャート1位に。 ・2016年、全国展開を行うフィットネス企業「ティップネス」社への楽曲提供において、DVD売上オリコンチャートで1位を獲得。「BAILA BAILA18」 ・既存楽曲のカバー制作 & レコーディング案件実績累計4000曲突破 ・自社配信サービス「シャナナTV」(WebTV)の事務・制作業務を担当。				
小林 哲:作編曲家。1998年のデビュー以降、ZARDをはじめビーイング系アーティストの編曲を数多く手がける。1999年より母校でもある大阪スクールオブミュージック専門学校にて作、編曲の講師を務め現在に至る。Steinberg 認定講師				
日程	授業形態	内容		
1	演習	授業内の方針説明と確認。個別ヒアリングの実施。		
2	演習	学生内プロジェクトチームの結成、方向性の確定。		
3	演習	各チーム、楽曲のパートレコーディング(スタジオの予定よって調整)		
4	演習	各チーム、楽曲のパートレコーディング(スタジオの予定よって調整)		
5	演習	各チーム、楽曲のパートレコーディング(進捗よってミックス作業)		
6	演習	作曲試聴会用に音源まとめ		
7	演習	試聴会での反省点、取り組むべき点を精査しフォーカスを合わせたクオリティアップ・アドバイス		
8	演習	各チーム、楽曲のパートレコーディング(スタジオの予定よって調整)		
9	演習	各チーム、楽曲のパートレコーディング(スタジオの予定よって調整)		
10	演習	各チーム、楽曲のパートレコーディング(進捗よってミックス作業)		
11	演習	楽曲によっては、ドラムの録音、生演奏に差し替える等、音の質感向上を目指す。(アレンジ進捗確認など)		
12	演習	各チーム、各楽曲の進捗確認、相互フォロー。		
13	演習	前期を通じて得た情報・技術を再度見直し、フォロー&アドバイス		
14	演習	ワークショップ		
15	演習	ワークショップ		
準備学習 時間外学習	レコーディングで使用する機材(マイク・ケーブル等)のある程度の予備知識、エンジニアコースの学生とのやり取りを円滑にする為のリファレンス楽曲の準備。			
成績評価	1. 実技試験(%) 2. 筆記試験(%) 3. 課題(%)	1)課題 100%		
教材	教科書			
	参考書			
学生への メッセージ	制作現場は「何かに特化する」だけではなく、「トータルで見える」技術がとて重要になります。現場での作業を通じてその技術を身につけられる授業です。是非、積極的に自分の制作物のクオリティアップに活用しましょう。			

カレッジ音楽科昼間 I 部 シラバス

科目名	進級制作 I		担当教員名	小林 哲/小松 寛史
時間数	60	必修・選択	配当年次	1年次 後期
曜日・時限			教室	301・403
授業の到達目標				
1.現場レベルで十分な対応を行えるディレクターの知識の習得、育成 2.どの分野、どの現場でも必要なコミュニケーションの重要性の確認・確立。 3.タイムスケジュール管理等の能力育成。				
授業の内容	※実務経験のある教員、知見を有する教員が、どのような授業を実施するのか、具体的に記載する			
レコーディングスタジオでの作業を通じ、コミュニケーション、ビジネスマナー、サウンドメイク技術を学習する。 □レコーディング作業に向けての準備 ・サイズ譜/コード譜、歌詞カード等の用意 ・演奏者、歌唱者などのブックイング ・レコーディング用データのフォーマット確認 □作業スケジュール(タイムライン)の把握&調整 □スタジオ内でのコミュニケーション、マナー技術の会得、習熟 □ミックス&マスタリングの方向性や、仕上げる目標点の設定・確認 【実務経験】 小松 寛史:株式会社テイクセブン所属。音源制作全般における業務を担当。作編曲をメインに企業へのCM・BGM・音効提供、アーティストへの楽曲提供、レコーディング業務を担当。 ・2006年「Go Way!」倅田來未 収録アルバムがオリコンチャート1位に。 ・2016年、全国展開を行うフィットネス企業「ティップネス」社への楽曲提供において、DVD売上オリコンチャートで1位を獲得。「BAILA BAILA18」 ・既存楽曲のカバー制作&レコーディング案件実績累計4000曲突破 ・自社配信サービス「シャナナTV」(WebTV)の事務・制作業務を担当。小林 哲:作編曲家。1998年のデビュー以降、ZARDをはじめビーイング系アーティストの編曲を数多く手がける。1999年より母校でもある大阪スクールオブミュージック専門学校にて作、編曲の講師を務め現在に至る。Steinberg 認定講師				
日程	授業形態	内容		
1	演習	本授業における実作業の確認&説明(サイズ譜の準備・ディレクション用歌詞作成の手順など)		
2	演習	正しいマイクの立て方・マイクの特性の説明		
3	演習	ProToolsにおける操作方法・ミックス方法の説明		
4	演習	Cubaseにおける操作方法・ミックス方法の説明		
5	演習	学生制作楽曲の技術的フォロー、アドバイス		
6	演習	講師の先生方から頂いたアドバイスを元に補正、長所向上をめざす		
7	演習	聴きやすいボーカルミックス、プレゼン用の音源提案		
8	演習	正しい音圧のあり方等		
9	演習	マスタリングが全てではなく、まずは「ミックス・素材からが重要」な点を念頭にアドバイス		
10	演習	楽曲によっては、ドラムの録音、生演奏に差し替える等、音の質感向上を目指す。		
11	演習	前期・後期の反省点、取り組むべき点を精査しフォーカスを合わせたクオリティアップ・アドバイス		
12	演習	ディレクションにおける「コミュニケーション」の重要性を再確認。		
13	演習	1年間を通じて得た情報・技術を再度見直し、フォロー&アドバイス		
14	演習	ワークショップ		
15	演習	ワークショップ		
準備学習 時間外学習	レコーディングで使用する機材(マイク・ケーブル等)のある程度の予備知識、エンジニアコースの学生とのやり取りを円滑にする為のリファレンス楽曲の準備。			
成績評価	1. 実技試験(%) 2. 筆記試験(%) 3. 課題(%)	1)課題 100%		
教材	教科書			
	参考書			
学生への メッセージ	制作現場は「何かに特化する」だけではなく、「トータルで見える」技術がとても重要になります。現場での作業を通じてその技術を身につけられる授業です。是非、積極的に自分の制作物のクオリティアップに活用しましょう。			